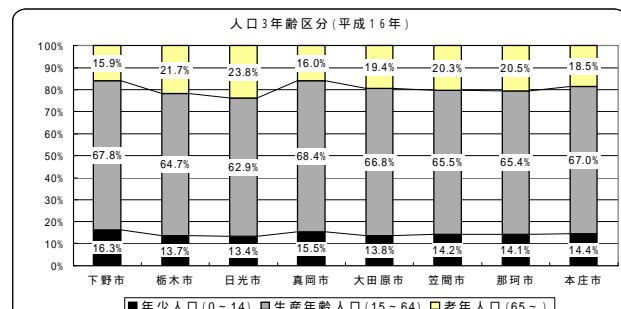
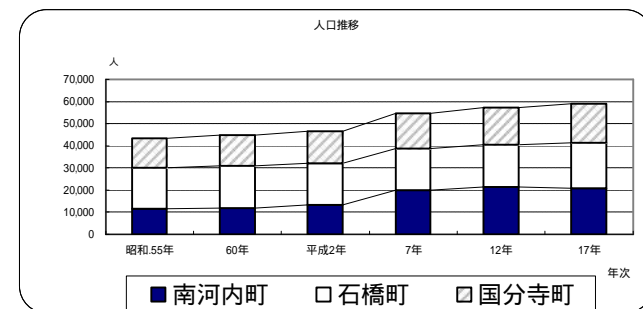


下野市総合計画・行政大綱策定 下野市の現状と課題 1

1. 人口動向

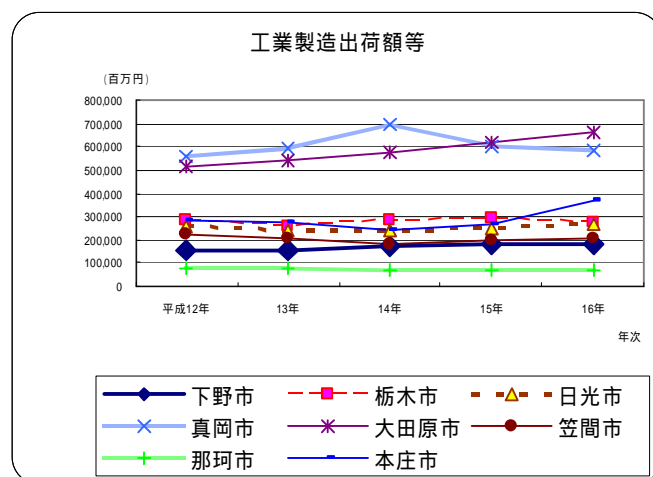
- ・ 総人口：増加傾向続く S60：約 45,000 人、H17：約 59,000 人 近年も増加が続く（特に旧石橋町、旧国分寺町）
  - ・ 年齢別人口（H16） 0～14 歳：16.3%、15～64 歳：67.8%、65 歳以上 15.9%
- <類似都市比較> 0～14 歳の割合高く、65 歳以上の割合低い 他都市より「若い都市」

人口が増加し、若年層の割合が高い。成長性の高い都市



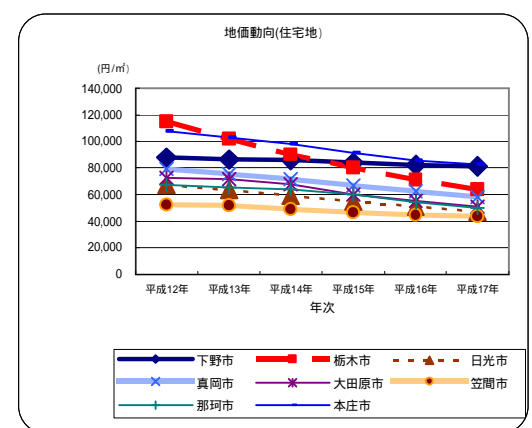
2. 産業動向

- 商業 商店数：減少傾向、従業者数：横ばい、年間販売額：概ね横ばい 商店大型化 小売吸引力：宇都宮市に購買力流出か
- <類似都市比較> 年間販売額：類似都市より小さく日光市の7割程度
- 工業 従業者数：横ばいから微減、製造品出荷額等：概ね横ばい
- <類似都市比較> 製造品出荷額等：真岡市、大田原市の1/3程度
- 農業 米や野菜が農業産出額の大半を占める、
- 人口に比較して、産業の販売額・出荷額が小さい



3. 地価動向

- 住宅地 旧南河内町で横ばい、他の旧2町で下落傾向
- <類似都市比較> 多くの都市で下落 横ばいの地点持つのは下野市のみ
- 商業地 旧石橋町、旧国分寺町とも下落傾向 (旧南河内町は商業地なし)
- <類似都市比較> 全都市下落、下落率で中位 質の高い住宅地で地価を維持



類似都市：栃木県栃木市、日光市、真岡市、大田原市（人口5～10万人）、茨城県笠間市、那珂市、埼玉県本庄市（人口5～10万人かつ東京から80～100km圏）

4. 医療・福祉

医療

- 病院数：概ね増加、医師数：増加傾向
- 人口1万人当たり医師数：約121人
- <類似都市比較> 医師数が他都市に比べ突出して多い

医療施設（平成16年）

	一般病院数	一般病床数	医師数	人口1万人当り医師数
下野市	3	1,334	714	120.9
栃木市	6	681	160	19.3
日光市	8	510	99	10.2
真岡市	3	608	110	17.5
大田原市	4	730	156	20.6
笠間市	5	619	127	15.5
那珂市	5	172	44	6.7
本庄市	10	431	97	12.1

資料：医療施設調査、医師・歯科医師・薬剤師調査（隔年）

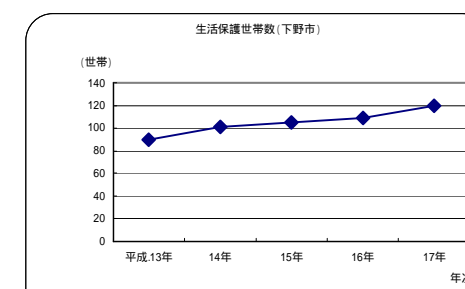
福祉（介護）

- ・ 要介護者数 H12：776人 H17：1,304人
- ・ 要介護1の伸びが大きい H12：202人 H17：462人
- ・ 介護施設利用者数が増加傾向

医療サービスの充実、一方で国保・介護の財政負担増

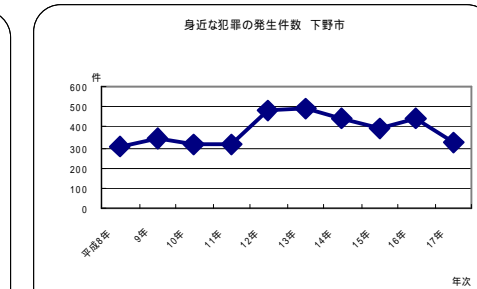
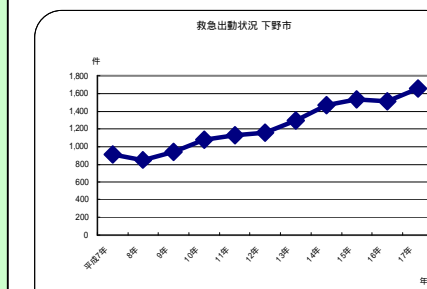
6. 社会保障

- ・ 生活保護人員、世帯数ともに増加
  - 保護人員 H13：136人 H17：167人
  - 保護世帯 H13：90世帯 H17：120世帯
- 市制施行に伴い、新たに市に移管された業務。最後のセーフティネットとして重要である一方、市の歳出増の懸念も



7. 消防・救急、犯罪動向

- 火災出動件数 ・H14, 15に大きく増加 ・その後H12, 13の水準まで減少
- 救急出動件数 ・一貫して増加の傾向続く（H7：912 H17：1,653件）
- ・ 急病が最も多く、次いで転院多い
  - ・ 交通事故の割合減り、転院の割合高まる
- 犯罪の発生状況 身近な犯罪：空き巣、ひったくり、車上狙い等
- H12～13をピークに、概ね減少傾向。H17で大きく減少し、H11の水準に減
- 火災・犯罪は落ち着きを見せる反面、急病・転院等の救急出動増える



人口増・年齢構造若く、地価も横ばいの地点あり 住宅都市として類似都市以上の力を持つ 一方、産業の規模は小さく、伸びも少ない。消費は隣接市へ流出 経済的基盤に弱さ

・ 医療の充実、火災・犯罪の少なさ 市民の安全・安心に大きく貢献、学校教育の行政効率も高い

・ 介護・社会保障の増大 利用人員が増え、歳出増の懸念

住宅都市にふさわしい安全・安心、居住地としての魅力向上（居住者を引きつける工夫の必要）

医療、福祉、社会保障など安全・安心を確立（維持）するための行政需要をまかなう税財源の確保